

リサーチ ユニット名称	グローバル地域研究ユニット	
	Research Unit for Glocal Area Studies (GLOCAS)	
組織		
氏名	部局・職	主な研究テーマ
(代表者) 石坂 晋哉	法文学部・准教授	福岡正信と自然農法 (統括) (統括)
(構成員) 佐藤 亮子	法文学部・准教授	シアトル宇和島屋 (統括)
米田 誠司	法文学部・准教授	全般・方法論 (観光経済学の側面から知見提供)
山口 由等	社会共創学部・教授	シアトル宇和島屋 (スーパーマーケットの経済史)
福井 秀樹	法文学部・教授	全般・方法論 (政治システム論の側面から知見提供)
梶原 克彦	法文学部・准教授	松山俘虜収容所 (統括)
三上 了	法文学部・准教授	全般・方法論 (混合研究法構築、データ分析方法)
近廣 昌志	法文学部・講師	全般・方法論 (国際金融論の立場から知見提供)
計 8名		

リサーチユニット名称	グローバル地域研究ユニット
代表者氏名	石坂 晋哉

〔設置目的〕

ローカルな場で培われた知・価値・技術・制度が、人・モノ・カネ・情報の移動に伴って世界各地に広がり根付いていくダイナミックなプロセスを学術的に捉え分析する枠組と方法論を構築し、**新たな学問領域としてのグローバル・スタディーズ、そして「グローバル地域研究」の形成**に寄与する。

研究の枠組としては、①愛媛というローカルな場から世界へと発信される知・価値・技術・制度に注目し、②それらがローカルな文脈から「脱埋め込み (離床、dis-embedding)」され、また「再埋め込み (着床、re-embedding)」されるメカニズムと、③それらがグローバルな場を移動する際に外から加えられる諸力 (規制・保護・援助・政策・暴力等) の影響を、④地域研究者や理論研究担当者による共同研究により明らかにする。また方法論としては、RUとして集散的に混合研究法 (Mixed Methods Approaches) を実践する。

〔活動計画概要〕

具体的には、「シアトル宇和島屋研究プロジェクト」、「福岡正信と自然農法研究プロジェクト」、「越境する海のNomad研究プロジェクト」、「松山俘虜収容所研究プロジェクト」の事例研究を並行して走らせつつ、これらの事例を貫くテーマ (①人・モノ・カネのグローバルな移動、②脱埋め込み⇒再埋め込みのダイナミクス、③ローカルな価値・技術等のグローバルな発信) についての分析を進める。最終目標として、「**グローバル地域研究**」という研究/教育分野と**その研究手法の確立**を目指すとともに、それを活かして、法文学部の**新設科目「グローバル化と政治/経済」**で使用する教科書を平成31年度を目途に編纂する。

図2 研究概念図